

授業実践記録シート

平成30年9月25日		授業者 野口 恭平	
小学5年		教科 国語	単元名 すぐれた表現に着目して、物語の魅力を伝え合おう 「大造じいさんとガン」
話し合い活動の意図と手立て	(意図) ・「クライマックスの一文を見つける」という課題を、クラスの人と協同し、議論を重ね、〈正解〉ではなく、〈納得解〉を導き出させたい。 (手立て) ○考えの視覚化 ・ワークシート、ホワイトボードを活用する。 ○話し合い形態の工夫 ・自由な形態(どこでも、誰とでも)で話し合わせる。		
	・初めに、「クライマックスの一文」を定義し、そのフレームの中で話し合わせることで、最初は拡散していた意見が、話し合う中でいくつかの意見に収束していった。 ・初めは話しやすい人のところで議論するが、そこで自分の意見に自信をもったり、逆に不安になったりすることで、時間が経つに連れグループ間での相互作用が見られるようになった。 ・話し合いの形態を限定しないことで、ペアやグループ学習での課題である、限定された集団内の能力差に左右されず、話し合うことができていた。 ・最終的に、いくつかの意見に分かれて授業は終了したが、クライマックスの定義内でそれぞれの〈納得解〉をもつことができていた。 ・モヤモヤ感を残して終了した児童は、次回の授業の冒頭で、振り返りが紹介され、モヤモヤ感として問題提起でき、全体の学びをさらに深めることができていた。		
課題	・特定の形態をとらない全体の話し合いでは、児童の相互作用は自然と行われるが、45分という時間のなかでより活発に、また、めあてからずれないように話し合わせるためには、教師のコーディネート力が求められる。今後は、そのコーディネート方法について、言語化したい。		

※ 4つの視点に加えて見えてきた話し合い活動に有効な手立て

①振り返りの紹介

振り返りを授業の冒頭に行い、授業への貢献度や授業を作っている当事者であるという意識を持たせることが、活発な話し合いへの参加につながる。

②魅力的な課題の設定

課題が魅力的(=必然性のある)であれば、自然と話し合い活動が活発になる。

(資料)

(資料 1)

スライドを使って、言葉を図解し、児童の理解を助ける。

長月 二十五日 火曜日
「大造じいさんとガン」
めあて 椋 鳩十 作

全員が、クライマックスの一文を見つけ、その理由を書くことができる。

(資料 2)

ワークシートを用いて、自分の考えを書かせる。また、話し合う事前と事後の考えを書かせることで、意見の変化を可視化する。

「構造曲線プリント」を作ろう！

今回はクライマックスの一文を見つけます。

(資料 3)

クライマックスの一文を定義することで、フレーム内で考えられるようにする。

復習しよう

「クライマックスの一文」とは？

「中心人物」が

「出来事」によって

「大きく変化したことがわかる」ところ。

「クライマックスの一文」を
考えてみよう。

(資料 4)

授業の流れを明確にすることで、活動の意義を児童自身が把握できるようにする。

クライマックスの一文を探そう！

【活動】(やり方)

- 1 クライマックスの一文を探す。
- 2 構造曲線プリントに書く。
- 3 理由を書く。※ここが大切！
- 4 「学び合う」。
- 5 全員で考える。

大切なのは：
「なぜ、そう考えたか。」

(資料 5)

毎時間、振り返りを書かせ、次の授業で紹介することで、活動のつながりを感じさせる。

みんなの感想・疑問

感想(感じた事)

・いくら相手と戦って勝ちたいと思っていても、「でき」よりは「仲間」を助けた方が本当の勝利(かっこいい)

・大造じいさんの残雪に対する気持ちが変わり、2人ともまた戦ってほしいと思っ

た。

・ふつうのガンは、あばれないから鳥小屋に入れていたけど、残雪は普通じゃないと思えます。作者が語りかけてきたのは最初の態度や行動で好き、きらいを決めつけないで、一番かっこいい行動をした時にどういか、すこなくいいか考えるということだと思えます。大造じいさんとガンのように

・私も、大造じいさんのように最初はいいましく思っている人がいても、その人のいいところを見つけて仲良くしたいです。

・大造じいさんははじめ、残雪をつかまえようとがんばっていた。だけど、おとりの鳥がハヤブサに捕まり残雪が助けたことで弱っている残雪をつかまえず、元氣なとこに堂々と戦いたい、と思つたことで、私は強い相手でも弱っているときに倒しただけでは意味がないという事をこの物語を讀んで知りました。